

第21回 環境イラストコンテスト総評

審査員 デザイナー 辻野 淳晴

【全体総評】

受賞された皆様おめでとうございます。

今年は全体的に、良い意味でシンプルかつ繊細な雰囲気を持つ作品が多かったという気がします。その中で特に独自の存在感を放ち、ひととき印象に残ったイラストを選考した結果が、今回の受賞作品となりました。

近年、猛暑や集中豪雨など、私たちは環境変動の影響を身近に感じています。

かつて、食器に残った油を洗い流すと、その水を魚が棲めるまでに浄化するには、浴槽何杯分もの処理水が必要だと聞いたことがあります。それ以来、食器の油脂は新聞紙や使い古した布などで拭き取ってから洗うよう心がけています。

SDGs が喧伝^{けんでん}される現在、世界中の人々がこのようなささやかな環境配慮を実践することで、環境の急激な変化を少しでも緩和できると考えています。

本コンクールが、今後もイラストを通じて環境保全の大切さを伝え、具体的な行動を促すきっかけとなることを願っています。

【最優秀賞】 佐藤 亜美 さん

受賞おめでとうございます。

応募作品の多くが柔らかな印象を持つ中、本作には深い重厚感があります。また、当コンクール最優秀作としてはじめて夜景をテーマにした点も特筆すべきでしょう。

一見して、その美しさと奥行きのある構図に心を奪われます。

細部を観察すると、繊細な描写ではなく、大胆な筆致^{ひっち}で色彩を重ねた印象派的手法が見えてきます。白色の絵具が躍る星々や気球、木々には、一気呵成に描かれた勢いが宿っています。この表現技法^{わんきょく}が湾曲^{こおう}する地平線と呼応し、画面全体に溢れる生命力と躍動感を創出しています。

さらに特徴的なのは、夜空に浮かぶ2つの気球です。その有機的なフォルムは、イチジクやパブリカといった自然の恵みを連想させ、独創的な世界観を構築しています。

この画法を大切にしたい新たな作品を期待しています。

【優秀賞】 坂本 琳さん

環境イラストコンテストにおいて動物をテーマにした作品は毎年多数見受けられますが、本作は三頭の動物が不思議な配置で描かれており、目を引きまゝす。全体が淡いミントグリーンで統一され、独特な印象を与えています。

鑑賞者を見つめる雪^{ひょう}豹、網に絡まった亀、崩落する雪山がリンクして、広大な環境を形成しています。静かな配置の中にさまざまな物語が秘められています。

【優秀賞】 佐藤 美空さん

風景の中にペットボトルが存在する場面はよく見られますが、海をその中に封じ込めた独創的なアイデアが光る作品です。スノードームのような内部で生態系が完結している様子が特徴的です。

ボトルに収められたジンベイザメは窮屈さを感じさせず、体の一部が外（のどこか）にはみ出していることで、異なる世界を覗き見るような幻想的な雰囲気^{のそ}を醸し出しています。背景のマットな黒色も効果的です。

【優秀賞】 細田 光結さん

サインペンで描かれた線画に色を加えたポップな手法が、明るく楽しい雰囲気を生み出しています。

少女と可愛らしい動物たちが海の中に配置され、独特の世界観が展開されています。

ほとんどの動物がカメラ目線でフレンドリーな気持ちを伝えていますが、もしシャチや鯨^{さめ}も正面を見つめていたら、さらに魅力が増していたかもしれません。

【優秀賞】 渡邊 智咲さん

鮮やかなマリンブルーが画面を覆い、一瞬で心をつかまれます。

これまでさまざまなイラストを見てきましたが、スーパーのレジ袋を美しく描いた作品は記憶にありません。

雲、波、レジ袋が流れるように舞っている構図が見事で、全体が青色で統一されている中で、ペンギンだけが黒で描かれている点が際立っています。下から見上げた絶妙な視点が作品の魅力を引き立てています。

【優秀賞】 清水 奏音さん

画面の半分を占めるリアルなライオンが迫力を放つ作品です。

ライオンは特に細密に描かれているわけではなく、力強い筆致^{ひっち}で絵の具を置いたことでより存在感を増しています。

灼^{しゃく}熱^{ねつ}の大地には環境破壊への怒りが表現されており、左側にはキリンや象のような動物が描かれ、黒い枯れ木が威圧的に^{そび}え立っています。この抽象的な表現が鑑賞者に想像の余韻を残します。

【優秀賞】 柴原 彩羽さん

ほぼシンメトリーに配置された花と地球が同様のタッチで描かれ、共感と対話を感じさせる安定感を与える作品です。

繊細な波と左上の光点によって、全体が光に包まれた流動感を醸し出し、地球と花の生命が融合することで環境が守られることを改めて教えてくれます。

【秀作】 佐藤 真希さん

淡く柔らかに描かれた本作は、全体が光に包まれたかのような雰囲気表現しています。

水滴と地球がほぼ同じタッチで描かれており、さまざまな想像を^か掻き立てます。

この地球は水滴が一瞬見せた^{はかな}い幻想のようなものであり、水滴こそが地球にとってかけがえのない母体ではないかとも思わせます。

爽やかな画面に、深い主題が込められています。

【秀作】 木村 真実さん

地球を抱える少女というテーマは本コンクールで多く出品されていますが、本作は作者独自の大胆なアレンジにより、非常に個性的な作品に仕上がりました。

実際の地形を無視した大陸は、まるで少女が抱えるキッチンミトンのようにも見えます。

下に描かれたうすだいい色の手は自由な形をしており、地球を飛び出した魚が円環を描いてキリンの背後を周回するなど、さまざまなモチーフが躍動感を与え、画面に活気をもたらしています。

【秀作】 兵頭 愛海さん

風の中を舞うような優しいタッチで描かれた本作品では、特に丁寧に描かれた少女の表情が注目を集めます。

腕に花を優しく抱えたその顔は、悲しんでいるのか、歓びが極まったのか。摘んだ花に^{ほお}頬を赤らめてお詫^わびしているのか、自然の大切さを心から感じ取った瞬間なのか、見る者にさまざまな解釈を促します。

風になびく髪も丁寧に描かれており、少女の気持ちを一層引き立てています。

指に挟んだ麦のような穂も示唆的で興味をそそります。

【秀作】 知花 乃杏さん

圧倒的な厚塗りの木が目を引き秀逸な作品です。

数色で平面的に塗られていますが、ひび割れが物質的な存在感を際立たせています。

画面上部から流れ落ちる水や、木を抱える掌も迫力を持ち、勢いと生命力に^{あふ}れる清々しい構成が見る者の心を捉えます。

【秀作】 田中 智菜さん

背後に伸び上がるクジラが特徴的で、空、地上、海が一体となり、魚やヒマワリを配置して劇的な空間を創り上げています。

少女と海亀の交流もさりげなく緻密に描かれており、地球の環境がすべて一体となって息づいている様子が良く表現されています。右下の看板「終点」も意味深く、考えさせられる要素となっています。

【秀作】 安藤 陽菜乃さん

ジグソーパズルのように地球の陸地が飛び散るシンプルなモチーフを、グラデーションでカラフルに彩った鮮やかな作品です。

地球を半分にすることで、より大きく配置したレイアウトも秀逸です。

一見しただけでは、なぜ地球が破裂したのか、地球は本当に空洞だったのか、そもそもこれは地球なのかと、創造的な想像が湧いてきます。

【佳作】 関口 遥さん

可愛い^{じょうろ}如雨露にさまざまな植物が詰め込まれ、周囲には四季折々の情景が広がっています。

素朴な画風ながら、創意や工夫が豊かに表現されたイラストです。

如雨露だけで完結した世界でありながら、傾けていない注ぎ口から水が溢れています。これは水が豊かであることを示すのか、あるいは環境の破綻を暗示しているのか、考えさせられます。

注ぎ口にいるトカゲが愉快的アクセントになっています。

【佳作】 田中 美卯さん

^{こい}鯉と思われる魚の背中がさまざまな花で彩られた幻想的なイラストです。

花の描写は透明感があり、魚の表面を覆っているのか、内部から輝き出ているのか、その微妙な関係が独創的です。

また、水面、木、山が一体化した空間構成も示唆に富んでいます。

【佳作】 神田 結芽さん

全体的に淡く同じ調子で描かれた花々が、装飾的で美しい印象を与えています。

右側の空白部分も効果的で、さりげなく地球を持つ少女の仕草や、横目で鑑賞者を見つめる眼差しなど、作者独自の表現が感じられます。

【佳作】 白旗 千紘さん

まるで絵本の世界に入り込んだような素朴で牧歌的^{ほっかてき}な雰囲気^{ほっかてき}が際立っています。

水彩で薄くさらりと描かれることで画面に軽やかさが生まれました。

人物の顔が描かれていないことも効果的です。

上部の孤独で暗い世界が、環境保全の重要性を訴えかけていて巧みです。

【佳作】 関本 琴乃さん

地平まで切り株が並び、それぞれに都市が築かれ、環境破壊的な生活が営まれています。

非常に独創的で幻想的な作品です。

茶系の色調で統一され、画面には緊張感が漂っています。

私たちの住む世界を戯画^{ぎが}化^かし、深いテーマを提示しています。

【佳作】 野村 唯子さん

画面上部の波紋と下部の缶が不思議な遠近感を演出し、視線を集める作品です。

上に生える草、浮いているかのような水滴、そして水面にあるのか水中にあるのか判然としない缶たち。

このようなモチーフの関係性が静かで神秘的な画面を創り出しています。

【佳作】 片居木 葵さん

一見すると愉快的な発想と描写が光る絵画ですが、よく見ると、美味しそうなお寿司はわずかで、その後に続くゴミや廃棄物が食欲をそぐ要素となっています。

現代の食生活において、一握りのお寿司を生み出すためには多くの資源が消費され、余った食材はゴミとして処理されています。このカラフルでありながら少し毒のあるイラストは、さまざまなことを考えさせてくれます。

【佳作】 齋藤 一華さん

少女が横向きに描かれた作品はそれほど多くありませんが、銀河や魚、花びらのようなものが舞い、流動的で優美なイラストとなっています。

風になびく髪や衣服、光輝く画面下部と青い闇のグラデーションが卓越しています。

【佳作】 松崎 蘭さん

江戸時代の浮世絵や文人画を思わせる、非常に味のある色使いと筆致に感心させられる作品です。

無人のかき氷屋や、終末的な行先を示すバス停看板の「この先」が独自の世界観を作り出しています。

ゴミと魚がゆったりと共存しているような牧歌的な雰囲気、というか諦めの境地も感じられます。

【佳作】 田島 穂乃さん

淡い色調が光を放つような雰囲気を醸し出しています。

南半球に走る車が排出する二酸化炭素や漂うゴミが浄化され、北極点で生命として芽生え、虹が祝福するというドラマが感じられます。

象徴的な虹色の矢印が画面のアクセントとなっています。

【佳作】 磯見 りりさん

海面は実際の波や波頭^{はとう}、深淺^{しんせん}の様子から離れ、独自にデザインされています。

作者特有の感性で装飾的で美しい海が創り出され、そこに加えられたリアルに描かれた手が目を引きます。

その腕が廃棄物でできているという対比が、陰と陽の鮮やかな作品に仕上がっています。

【佳作】 大島 彩希さん

画面いっぱいには花が踊る様子が目を奪い、花瓶以外のものは一切描かれていません。その潔さが、鮮やかな絵画作品となりました。

特に花の種類にこだわることなく、一気呵成^{かせい}に描かれたような筆致からは、生命の躍動と奔放に生きる遊びが伝わってきます。

以 上